



お元気ですか?



「身体髪膚（しんたいはっふ）これを父母に受く あえて毀傷（きしょう）せざるは孝の始めなり」（孝経から）“人の身体はすべて父母から恵まれたものであるから、傷つけないようにするのが孝の始めである”「自分の身体を大切にすることが親孝行の始まりだ」という言葉です。みなさんは、親孝行をしておられるでしょうか。

まだ父母は元気だよといわれる人は、しっかりと親孝行をしましょう。一緒に住んでいないと言われる人は、電話でいいのです（今は特にコロナ禍で会うということは難しくなっていますから）。子どもに、お父さん、お母さんが自分たちの親と仲良く話している姿を見せてやってください。子どもは、自分の親が親孝行をする姿を見ることで、優しい子に育ちます。今は、親殺し、子殺しなど耳をふさぎたくなるニュースが聞かれますが、親を大切にし、子どもを大切にすることは、人として最低限の行いなのではないでしょうか。

褒め方もいろいろ

人は誰でも、褒められるとうれしく、気持ちがいいものです。逆に叱られると気持ちが悪くなります。「褒めて伸ばす」とよく言われますが、それはその人を気持ちよくさせてさらに、やる気にさせることがねらいなのでしょう。でも、「褒めること」ことだけでいいのでしょうか。そこには大きな落とし穴があるように思います。

ここで、ある研究の結果をみてみましょう。（1998年アメリカのコロンビア大学で行われた研究結果です）10歳から12歳の子ども400人ほどを対象にした実験です。

- 1 子どもたちをA・B・Cの3グループに分ける。
- 2 A・B・Cすべてのグループに簡単な図形のテストを解かせる。簡単なので、みんな成績が良い。
- 3 Aグループには「頭がいいね」と褒め、Bグループにはなにも言わず、Cグループには「頑張って問題を解いたね」と褒めた。
- 4 次にA・B・Cグループの子どもたちに、「難しいけどやりがいがある問題」と「1回目と同じくらい簡単な問題」を選ばせた。
- 5 「難しいけどやりがいのある問題」にチャレンジした子どもの割合をA・B・Cグループの順に35%・55%・90%だった。

この結果をみなさんはどのように考えられるでしょうか。

頭の良さを褒められたAグループの子どもたちは、次の問題に対してチャレンジする意欲を持たなくなった子どもが多く、何も言われなかったグループの子どもよりもチャレンジした子どもが少なかったという結果が出ました。そして、努力したことを褒められたCグループの子どもたちは、次（難しい問題）へのチャレンジを望む子どもが多かったという結果が出ました。

子どもは、いろいろなことにチャレンジすることによって、多くを学習し、生きる力を身につけていくものです。Aのタイプのような子どもではなく、Cのタイプのように積極的にチャレンジする子どもに育てて欲しいものですね。そこで、チャレンジするかしないかで、子どもは大きく成長するのか、そうでないのか変わってくるのだと思います。

この研究の結果から、「頭の良さ」を褒めるのではなく、「努力」や「頑張り」を褒めることがほめ上手になるポイントのようです。そのためには、やらせっぱなしではなくてその子が努力している姿を見ておく必要があります。

子どもを褒めて自信をもたせることも大切ですが、ただ褒めるだけでは子どもにとって良くないようです。